

2020年度 開催

製品安全 リスクアセスメント／PLセミナー

今こそ「リスクアセスメントの実践力」を高めよう!

企業存続をもゆるがす製品事故
「安全性レベル向上のためのヒント」がここにあります!

一般財団法人 日本科学技術連盟

「製品安全」 関連セミナー

※ R-Map® は、日本科学技術連盟の登録商標です。

コース名	主な内容	コースのねらい
リスクアセスメント 基礎コース 1 日	リスクアセスメントの基本 R-Map 手法の特徴 R-Map を使ったリスクの評価方法 セーフティモジュール法 リスクアセスメント演習：R-Map	リスクアセスメントの基礎知識を知り、 R-Map とはどのような手法か、 その使い方を学べます。
リスクアセスメント 実践コース 2 日間	リスクファインディング リスクの見積もりとリスク低減 PSPTA 法によるリスクアセスメント HHA 法によるリスクアセスメント	危害シナリオの作成とそのシナリオに基づく リスク評価について学べます。また、効果的な リスク分析手法であるPSPTA法、HHA 法 やセーフティモジュール法を習得できます。
リスクアセスメント エキスパートコース 3 日間	危害シナリオの抽出と記述 リスク低減の見積もり IoT 機器の安全確保 PSPTA 法、HHA 法 によるリスクアセスメント グループ演習	PSPTA 法や HHA 法を使って、リスクアセ スメントの作成力、及び作成されたリスクアセ スメントのレビュー力を高めます。
リスクアセスメントによる リコールマネジメントセミナー 1 日	法規制、判定フローと措置の選択 消費生活用製品の判断事例 バイアスを応用した医療機器の事例分析 リコール判断のケーススタディ	製品事故が発生した場合や発生のおそれがある 場合の迅速かつ適切なリコール判断と対応 やノウハウを学べます。
製品安全技術セミナー 「基礎コース」 1 日	製品安全技術の基礎 事故調査技術の基礎 安全規格と安全適合性評価 ハードウェア、ソフトウェアの安全確保の基礎	製品安全への取り組みの必要性・重要性の 理解、製品安全技術の基礎的な内容を学び、 社内でリスクアセスメントと組み合わせ、製品 安全確保のための実践に繋がられます。
製品安全技術セミナー 「スキルアップコース」 1 日	製品安全活動の組織への展開 製品安全審査（PS レビュー）導入のポイント 誤使用問題をヒューマンファクター技術で解決 誤使用事故防止のケーススタディ	社内で組織的に製品安全を展開するために必要 な知識やポイントを講義やケーススタディを 通じて学べます。
PS / PL マネジメントコース 2 日間	製造物責任（PL）： PL 法理論、PL 判例と訴訟防御策 製品安全（PS）： マネジメントの概要、PS マネジメントシステムの構築	製造物責任（PL）法、改正民事訴訟法、製品 安全に関する基礎事項を法律面から技術面まで 判例・事例を通じて学べます。

※都合により、講師・内容について一部変更になる場合がございますので予めご了承ください。

●リスクアセスメントセミナー関連事業のご案内

《略称：RA 実践研究会》

第3年度 「リスクアセスメント実践研究会」

ー リスクアセスメント・製品安全に関する実践課題解決と異業種交流の貴重な場 ー

- 期 間：2020 年 5 月～ 2021 年 3 月 < 年 9 回 >
- 参 加 費：115,000 円（一般・日科技連賛助会員ともに）／ 100,000 円（継続参加者） ＊税別
- 会 場：東京・日科技連 東高円寺ビル
- 活動内容：研究活動、共通演習、特別講演会、成果発表会
- 研究対象：① 製品等の開発段階におけるリスクアセスメント
② 事故情報に基づく既製品のリスクアセスメントと市場措置判断
③ IoT 時代の安全リスクアセスメント

※ P.10 も併せて参照ください。

(略称)
RA
基礎

リスクアセスメント基礎コース

日科技連が開発した R-Map 手法は、リスクを「見える化」する手法としてその有効性が認識され、国内で導入する企業が急速に増加し、経済産業省では 2008 年 4 月より、報告された製品事故に対して R-Map によるリスク評価を実施し、リコールの必要性判断にも活用しています。縦軸に「発生頻度」、横軸に「危害の程度」のマトリックスを使用し、リスクの大きさを表現し、許容できないリスク領域や安全領域をビジュアルに表現することが可能です。対策前後のリスクと各対策要素のリスク低減効果がマトリックス上で「見える化」されます。製品、システムレベルにおける安全設計仕様の作成、事前・事後の安全性評価に有効です。当コースは、リスクアセスメントの実践に向けた基礎コースとして、R-Map 手法を中心に学びます。

参加にあたり、次の資料を URL からダウンロードし、事前にご一読ください。

「製品安全、リスクアセスメントのための R-Map 入門（第 1 版）」（R-Map 実践研究会編）

<http://www.juse.or.jp/reliability/introduction/03.html>

※ダウンロードする際には、個人情報を入力する必要があります。

＜ カリキュラム ＞

時間	科目	主要内容
10:00～11:40	リスクアセスメント概論（1）	リスクアセスメントの基本、R-Map 手法の特徴 R-Map 関連手法の紹介
11:50～13:10	リスクアセスメント概論（2）	R-Map を使ったリスクの評価方法 開発段階の事例、市販後の事例、流通事業者の対応
14:10～15:30	リスクアセスメント概論（3）	セーフティモジュール法
15:40～17:00	リスクアセスメント演習	R-Map
17:00～17:30	質疑応答	_____

予定につき、一部内容を変更することがあります。

＜ 開催日 ＞

回数	開催地	開催日
1	東京	2020 年 4 月 21 日（火）
2	東京	2020 年 9 月 10 日（木）

対 象 業務上で製品安全の取り組みが必要な方、リスクアセスメントをミッションとされている方、製品安全活動、リスクアセスメント、R-Map 手法をこれから学びたいと考えている方、製品リスクアセスメント関連セミナーに参加を検討している方・参加を予定している方 など

会 場 東京・日科技連 東高円寺ビル

講 師 松本 浩二（製品安全コンサルタント）、三本 利幸（株タスク）、根津 幸弘（東芝テック株）

参加費 27,000 円（一般）／ 22,000 円（会員）＊税抜

(略称)
RA
実践

リスクアセスメント実践コース

製品の安全性で優位に立つためには、ただリスクアセスメントを行えば良いというものではありません。当コースでは、事故の未然防止から市場措置の判断にまで広く使用されている実践的なリスクアセスメント手法である、PSPTA^{*1}、HHA^{*2}およびSM^{*3}について、豊富な事例を交え、詳しく解説します。また、グループ演習を通じてその実践力を養成します。

- *1 PSPTA : Product Safety Potential Tree Analysis
- *2 HHA : Handling Hazard Analysis
- *3 SM : Safety Module

<< コースの特色 >>

- ①リスクアセスメントの実務に必要な知識が体系的に学べます。
- ②幅広い分野で使用されている、有効かつ実践的なリスクアセスメント手法を豊富な事例で、分かりやすく解説します。
- ③グループ演習は、実機を用いて実践的な内容で行います。
- ④リスクアセスメントによる事故の未然防止、再発防止のはかり方が学べます。

<< カリキュラム >>

	時間	科目	主要内容
1日目	9:30~10:30	リスクの見積もりと低減	リスクの見積もりと低減の考え方
	10:30~12:00 13:00~14:30	PSPTA 法によるリスクアセスメント	製品の故障等に起因する事故の未然防止
	14:30~17:30	リスクアセスメント演習 (I)	PSPTA 法によるリスクアセスメント演習 演習発表
2日目	9:30~11:00	リスクファインディング	リスクファインディングの手法
	11:00~11:30	リスクの見える化	SM 法
	11:30~12:00 13:00~14:30	HHA 法によるリスクアセスメント	誤使用等に起因する事故の未然防止
	14:30~17:00	リスクアセスメント演習 (II)	HHA 法によるリスクアセスメント演習 演習発表

予定につき、一部内容を変更することがあります。

<< 開催日 >>

回数	開催地	開催日
1	東京	2020 年 4 月 22 日 (水) ~ 23 日 (木)
2	東京	2020 年 10 月 27 日 (火) ~ 28 日 (水)
3	東京	2021 年 1 月 18 日 (月) ~ 19 日 (火)

対 象 管理職・担当者・スタッフの方で、リスクアセスメントが「できるようになりたい」「作成されたリスクアセスメントを見て内容を理解できるようになりたい」「商品の選定に活用したい」等、具体的なニーズがある方から、知識習得を目的とする方まで広く対象としています。

会 場 東京・日科技連 東高円寺ビル

講 師 伊藤 淳 (日科技連嘱託/リスクアセスメント実践研究会 統括主査)、久保田 享 (株豊田自動織機)

参加費 45,000 円 (一般) / 40,000 円 (会員) *税抜

(略称)
RA
EX

リスクアセスメントをより深く理解したい、レビュー力をつけたいというニーズに応えます！

リスクアセスメントエキスパートコース

「リスクアセスメントを実施しているが、良く理解できていない部分がある」、あるいは、「改善すべき点がないか等を確認したい」という声を多く聴くようになりました。また、一方では「リスクアセスメントの推進を任されているが、他社等での推進方法や、最新のリスクアセスメント手法を確認したい」という声も寄せられるようになりました。

当コースでは、最先端のリスクアセスメント手法である PSPTA^{*1} および HHA^{*2} 手法をもとに、リスクアセスメント作成のポイントならびにレビュー時の着眼点等について豊富な事例を交えて詳しく解説します。さらに、実機を用いたグループ演習も行い、リスクアセスメントの実践力・レビュー力を養成します。

*1 PSPTA : Product Safety Potential Tree Analysis *2 HHA : Handling Hazard Analysis

<< コースの特色 >>

- ①リスクアセスメントを導入し、推進リーダー・中核者の育成まで手掛けた経験豊富な講師が解説します。
- ②リスクアセスメントの作成及びレビューのポイントを豊富な事例で解説します。
- ③リスクアセスメントの導入、展開、定着化の各段階における中核者の役割を具体的に紹介します。
- ④グループ演習を通じ講義の内容を会得できます。

<< カリキュラム >>

	時間	科目	主要内容
1日目	9:30~12:00	危害シナリオの抽出、初期リスクの見積り	危害シナリオの抽出・記述及び初期リスクの見積り方
	13:00~15:30	グループ演習 (I)	危害シナリオの抽出、レビュー
	15:30~17:30	安全の構築と残留リスクに対する評価	3ステップメソッドと設計手法 ALARP 評価、表示種の判定
2日目	9:30~11:00	リスク低減の見積り	確率計算によるリスク低減の見積り
	11:00~12:30	グループ演習 (II)	リスク低減の見積もり、レビュー
	13:30~15:00	PSPTA によるリスクアセスメント	PSPTA の作成及びレビューのポイント
	15:00~17:30	グループ演習 (III)	PSPTA の作成、レビュー
3日目	9:30~11:00	IoT 機器の安全確保	各種危害防止のための基本的要件
	11:00~12:00 13:00~14:00	HHA によるリスクアセスメント	HHA の作成及びレビューのポイント
	14:00~16:30	グループ演習 (IV)	HHA の作成、レビュー
	16:30~17:00	質疑応答	コース内容全般にわたる質疑応答

予定につき、一部内容を変更することがあります。

<< 開催日 >>

回数	開催地	開催日
1	東京	2020 年 12 月 8 日 (火) ~ 10 日 (木)

対 象 リスクアセスメント実践コース終了程度の知識を有する、
製造事業者の設計・品質保証・製造各部門の責任者、リスクアセスメントの推進者・中核者／
流通・販売事業者の品質管理責任者、マネージャー、リスクアセスメントの推進者・中核者

会 場 東京・日科技連 東高円寺ビル

講 師 伊藤 淳 (日科技連嘱託/リスクアセスメント実践研究会 統括主査)

参加費 71,000 円 (一般) / 62,000 円 (会員) *税抜

(略称)
RA
リコール

リスクアセスメントによるリコールマネジメントセミナー

リコールマネジメントは、失敗すれば企業の存続にも関わる重要な取り組みです。

当コースでは製品事故が発生した場合の迅速かつ適切な判断と取り組みについて、R-Map 手法の活用を通じて学びます。

<< コースの特色 >>

- ①日本及び海外における消費生活用製品や医療機器の法規制と重大事故報告、リコール判断のプロセスについて学びます。
- ②リスクの大きさや最悪のケース、判断に影響を与えるバイアスなどを加味し、事例で重大事故報告、リコール判断のポイントを学びます（消費生活用製品、医療機器）。
- ③リコール判断のケーススタディを行います。

<< カリキュラム >>

時間	科目	主要内容
10:00～11:00	法規制（日本と欧米）	重大事故報告やリコール報告に関わる制度
11:10～12:00	判定フローと措置の選択	法規制による判断と自主判断について
13:00～14:00	消費生活用製品の判断事例	国内における判断事例と欧州における現状
14:00～14:50	バイアスを応用した医療機器事例分析	日米事例の上位概念化と消費生活用品への展開
15:00～16:30	リコール判断のケーススタディ	事例による演習
16:30～17:00	質疑応答	

予定につき、一部内容を変更することがあります。

<< 開催日 >>

回数	開催地	開催日
1	東京	2020年 8月26日(水)

対 象 リスクの大きさによる重大事故報告、リコール判断が活用されている消費生活用製品や医療機器分野などを中心に、設計・製造・流通・販売に関わる事業者、工業会、消費者団体に所属される管理者・技術者・スタッフ

会 場 東京・日科技連 東高円寺ビル

講 師 松本 浩二（製品安全コンサルタント）、三本 利幸（株タスク）、大田 利幸（元 パナソニック株）、久保田 享（豊田自動織機株）

参加費 30,000 円（一般）／ 25,000 円（会員）＊税抜

(略称)
PS
基礎

製品安全技術セミナー 基礎コース

製品安全の確保には、基礎となる安全技術と安全規格についての理解が必要です。

当コースでは、製品安全への取り組みに携わる方の基礎学習講座として、製品安全の必要性・重要性の理解にはじまり、他社・多業種事例をもとに製品安全技術や安全規格の基本を習得します。

また、リスクアセスメント技術と組み合わせることで、より効率的・効果的な製品安全の確保が目指せます。

■コースのねらい

製品安全への取り組みの必要性・重要性の理解ならびに製品安全技術の基礎的な内容を習得し、社内でリスクアセスメントと組み合わせることで、製品安全確保のための実践に繋げる。

＜＜ コースの特色 ＞＞

- ①製品安全活動における基礎知識や製品安全担当者に必要な安全技術とその使い方を学べます。
- ②未然防止の観点から、事故調査の基本とそのポイントを見直します。
- ③安全規格とリスクアセスメントの効果的活用（家電・IT機器、ヘルスケア製品）から幅広い知識が学べます。
- ④ハードウェア、ソフトウェアにおける安全確保のためのリスク低減の基本的な技術が学べます。

＜ カリキュラム ＞

時間	科目	主要内容
9:30～10:30	製品安全技術の基礎	製品安全活動において理解しておくべき基礎知識、製品安全担当者に必要な情報やその技術
10:30～11:30	事故調査技術の基礎	事故調査の目的と手法、事故の根本原因と是正処置
12:30～13:30	家電製品・IT機器から学ぶ安全規格と安全適合性評価	関連する安全規格、安全規格では判断が困難な事例リスクアセスメントと安全規格適合性評価の上手な組み合わせ
13:30～14:30	ヘルスケア製品から学ぶ安全規格と安全適合性評価	関連する安全規格、安全規格では判断が困難な事例リスクアセスメントと安全規格適合性評価の上手な組み合わせ
14:45～16:30	ハードウェア、ソフトウェアの安全確保の基礎	安全達成の考え方、設計基準の考え方、ハザード分析技法、ハードウェアによるリスク低減、ソフトウェアによるリスク低減
16:30～17:00	質疑応答	

予定につき、一部内容を変更することがあります。

＜ 開催日 ＞

回数	開催地	開催日
1	東京	2020年 9月28日(月)

対 象 分野を問わず広くモノづくり及び調達分野等に携わる、製品安全担当・関係者、開発、設計、品質保証、製造部門等の管理者・技術者・スタッフ

会 場 東京・日科技連 東高円寺ビル

講 師 松本 浩二（製品安全コンサルタント）、市川 敏夫（キヤノンメディカルシステムズ(株)）、澤田 勝（パナソニック(株)）

参加費 28,000円（一般）／23,000円（会員）＊税抜

(略称)
PS
スキル

製品安全技術セミナー スキルアップコース

製品安全の確保には、基礎から応用まで幅広い安全技術の知識をもって展開することが必要です。

また、そのための組織的な仕組みや体制は必要不可欠であり、それを牽引するスペシャリストも必要です。

本コースでは、製品安全審査を組織的に導入するためのポイントや、誤使用の防止についてのケーススタディにより実践的に製品安全について学んでいただき、組織の製品安全活動の活性化に繋げていただく人材を養成します。

■コースのねらい

社内で組織的に製品安全を展開するために必要な知識やポイントを得る。

<< コースの特色 >>

- ①開発プロセスにおける設計審査と製品安全審査（PS レビュー）の基本から制度の導入・展開、実施記録の作成・保存・活用方法などについて学べます。
- ②予見可能な誤使用への対応や勘所などについてヒューマンファクターの観点から学べます。
- ③安全確保のために合理的に予見可能な誤使用のケーススタディを実施します。

<< カリキュラム >>

時間	科目	主要内容
9:30～10:45	組織への展開製品安全審査（PS レビュー）導入のポイント	開発プロセスでの位置づけ、設計審査と製品安全審査、記録文書の様式例、人材育成
11:00～12:30	誤使用問題をヒューマンファクター技術で解決してみよう	合理的に予見可能な誤使用、ヒューマンエラーへの対処法、リスク認知のバイアス
13:30～16:30	【ケーススタディ】誤使用事故防止のケーススタディ	合理的予見可能な誤使用についての事例演習
16:30～17:00	質疑応答	_____

予定につき、一部内容を変更することがあります。

<< 開催日 >>

回数	開催地	開催日
1	東京	2020 年 9 月 29 日（火）

対 象 分野を問わず広くモノづくり及び調達分野等に携わる
製品安全担当・関係者、開発、設計、品質保証、製造部門等の管理者・技術者・スタッフ

会 場 東京・日科技連 東高円寺ビル

講 師 松本 浩二（製品安全コンサルタント）、三本 利幸（株タスク）

参加費 30,000 円（一般）／ 25,000 円（会員） ＊税抜

(略称)
PS/PL

PS/PLマネジメントコース

1995年のPL（製造物責任）法施行をはじめ、ISO 9001、14001、IEC などさまざまな規格が定められ、製品供給者にとって、より厳しい製品安全への法的責務が問われています。それにもかかわらず、多くの企業では安全性確保に対する対応が遅れたまま、かつ表面的で、真に消費者の要求に応える取り組みがなされていません。最近、相次いだ各方面でのPL事故やリコール隠し問題は、何よりもそのことを物語っているのではないのでしょうか。

今、企業には「ユーザーにとって安全な製品を提供していくためには」という姿勢が必要であり、そのためにはPL、および安全と環境に対する企業の社会的責任（CSR）を確保する社内管理体制の整備・確立が不可欠です。

こうした安全性品質保証活動を推進するためには、PS（製品安全）やPLなどの基本的な考え方を理解した品質保証スタッフおよびPSコーディネーターの養成が必要です。

本講座は、産業界、学界両分野から製品安全および製造物責任に関して、知識・経験豊富な指導講師陣のご協力を得て開催していますので、貴社のPL対応、PS関連業務の企業体質、リスクマネジメントの強化のためにも、是非ご利用されることをお勧めいたします。

<< コースの特色 >>

- ①PL法、改正民事訴訟法、製品安全に関する基礎的事項を、経験の少ない方でも法律面から技術面まで十分理解できるようにわかりやすく講義・解説を行います。
 - ・PL問題の重要性と法律の理解
 - ・最近の欧米の動向、代表的裁判例の紹介と解説
 - ・クレーム・訴訟への対応
- ②製品安全を実施するための企業の取り組み
 - ・安全の概念の変化
 - ・リスクアセスメントの導入
 - ・PSマネジメントシステムの構築
- ③PL対応からPSシステム構築まで、トータルで学べます。

<< カリキュラム >>

	時間	科目
1日目	9:30～12:30	製造物責任（PL） PL法理論
	13:20～16:20	製造物責任（PL） 主要各国のPL判例と訴訟防御策
	16:30～17:30	社内システムにフィードバックするための判例事例
2日目	9:30～12:30	製品安全（PS） マネジメントの概要
	13:30～17:00	PSマネジメントシステムの構築

予定につき、一部内容を変更することがあります。

<< 開催日 >>

回数	開催地	開催日
1	東京	2020年 7月6日（月）～7日（火）

対 象 製造物責任・製品安全に関わる法務、総務、保険、顧客担当苦情処理、企画、設計、開発技術、品質管理・品質保証、製造、購買・調達等の管理者、スタッフの方々、マネージャークラスの方々。

会 場 東京・日科技連 東高円寺ビル

講 師 阿部 道明（中央大学 教授） 松本 浩二（製品安全コンサルタント）、杉山 明久（元 ヤマハ発動機株）をはじめとする、製品安全および製造物責任に関して経験豊富な実務家・専門家が指導いたします。

参加費 47,000 円（一般）／ 40,000 円（会員） ＊税抜

第3年度 リスクアセスメント実践研究会

(略称: RA研)

製造事業者から販売事業者、さらには検査機関に至るすべてのステークホルダーが一堂に会して、自職場のリスクアセスメント実践力を高めるために、様々な側面から研究活動を行い、アウトプットを出します。また、本研究会の成果は最終回の成果発表会で披露します。

活動内容 ※都合により、変更になる場合がございますこと、予めご了承ください。

回	開催日(予定)	活動内容	
		10:00~12:00	13:00~16:30
1	2020年 5月29日(金)	オリエンテーション	研究会の説明
2	6月26日(金)	共通演習	
3	9月25日(金)	研究活動(テーマ設定)①	
4	10月23日(金)	特別講演会(第1回)	研究活動②
5	11月20日(金)	研究活動③	
6	12月18日(金)	研究活動④	
7	2021年 1月22日(金)	研究活動⑤	全体研究会(中間報告)
8	2月19日(金)	特別講演会(第2回)	研究活動⑥
9	3月26日(金)	研究活動⑦	
		成果発表会	17:00~ 情報交流会

会 場	日本科学技術連盟・東高円寺ビル 研修室
会 費	115,000 円(一般会員とも)/2019 年度(第2年度)リスクアセスメント 実践研究会からの継続参加費100,000 円 *税抜き 本ガイドの参加費は、消費税抜きの金額です(消費税転嫁対策措置法の総額表示義務の特例により)。2019年11月現在の消費税(10%)を加えて請求させていただきます。一部未定または予定のものもあります。

特別講演会

製造物責任・製品安全の基本的な考え方や諸手法、またはこれからの重要なテーマ、関心が高いテーマについて参加メンバーの要望も反映しながら企画した、専門家による講演および質疑応答を行います。本年度の講演テーマ、講演者については随時ホームページで公表いたします。

研究活動

ご希望の研究テーマごとに分かれ、指導講師と共に該当テーマについて深く検討、議論を行います。他企業、異業種の方との情報交流の場でもあります。安心して議論を行うため、参加メンバー・指導講師は、本研究会内での議論の内容・知り得た情報等に関し、「守秘誓約」を交します。ここでしか聴けない真摯な“ホンネトーク”ができるのは“本研究会ならでは”と言えます。

成果発表会

最終月(2021年3月26日(金))に、研究成果を発表していただきます。成果発表会終了後、情報交流会(無料)を予定しております。
※2020年度の研究会にお申し込みいただいた方は、前年度(2019年度)の成果発表会(2020年3月13日(金))に無料でご参加いただけます。参加ご希望の方は、申込書にその旨をご記入ください。

■特別講演会、成果発表会だけの参加も可能です！

「特別講演会」(9月、1月)と「成果発表会」(3月)は、研究会メンバー以外の方でもご参加いただけます。

詳細は随時ホームページで公表します。

〔特別講演会〕	第1回: 2020年9月25日(金) 10:00~12:00	} at 日科技連 東高円寺ビル
	第2回: 2021年1月22日(金) 10:00~12:00	
〔成果発表会〕	2021年3月26日(金) 10:00~17:00	

※詳細は「専用パンフレット」をご請求ください。

リスクアセスメントに 有効な R-Map® 手法のご紹介

～R-Map 手法は、日科技連で提案したオリジナル手法です～

☆R-Map(Risk Map)とは

縦軸に「発生頻度」、横軸に「危害の程度」のマトリックスを使用して、リスクの大きさを表現する手法です。

※R-Map は日科技連の登録商標です。

☆R-Map 手法誕生の経緯

日科技連の製品安全(PS : Product Safety)に対する研究活動は、1974年に発足した「PL(Product Liability)研究会」に端を発し、その後「PS研究会」と改称し、1995年7月のPL法施行時に活動のピークを迎えました。

「PS研究会」は、2003年に休止となりましたが、松本浩二氏(当時(株)東芝)をリーダーとする分科会でR-Mapを提案しました。

その後、日科技連に、異業種による自主的活動「R-Map実践研究会」が、設置され、その研究の成果として、『R-Map実践ガイダンス』、2014年には『世界に通用する製品安全リスクアセスメントシリーズ(全4巻)』(ともに日科技連出版社)が発行されました。

このようにR-Mapは日科技連が開発した、リスクを「見える化」する手法として、今や産業界に広く普及しています。

消費生活用製品に使用する R-Map

発生 頻 度	5 10-4超	頻発する	C	B3	A1	A2	A3
	4 10-4以下 ～10-5超	しばしば 発生する	C	B2	B3	A1	A2
	3 10-5以下 ～10-6超	時々 発生する	C	B1	B2	B3	A1
	2 10-6以下 ～10-7超	起こりそうに ない	C	C	B1	B2	B3
	1 10-7以下 ～10-8超	まず 起こり得ない	C	C	C	B1	B2
0 10-8以下	ゼロレベル 10-8	考えられ ない	C	C	C	C	C
			無傷	軽微	中程度	重大	致命的
			なし	軽傷	通院加療	重傷 入院治療	死亡
			なし	製品発煙	製品発火 製品発爆	火災 (建物焼損)	
			0	I	II	III	IV
			危害の程度				

出典：R-Map入門コース(R-Map概論(1)松本浩二講師資料)

日科技連からのR-Mapに関する情報発信

日科技連Webサイトより

第1回 R-Map の歴史に残る快挙
—ISO 10377 に取り上げられる！—

「R-Map」は、一般財団法人日本科学技術連
盟で生まれた産業界に共有されている日本
発の国産手法です。

経済産業省でも2008年4月より、報告さ
れた製品事故に対して R-Map によるリスク
評価を実施し、リコールの必要性判断にも活
用するなど、日本産業界のグローバル競争に
おいて必須のアセスメント手法と認知して
います。

その R-Map の歴史に残る出来事が起こりま
した。

2013年4月16日に発行された国際安全
規格『ISO 10377 消費者製品安全—供給者
のためのガイドライン』内のリスクアセスメ
ント方法論の8つの参考文献の一つとして、
世界に発信されたのです。

これは、『R-Map』が世界に認められた瞬間と
言っても過言ではないでしょう。

民間で開発された一つの手法が、世界の標準規格で認められるというのは稀有なことなのです。



製品安全関連セミナー用 参加申込書

同じ参加者が同年度内の下記パッケージのセミナーを同時にお申込みいただいた場合、下記パッケージ料金で受講できます。

パッケージ	正規料金		パッケージ料金	
	一 般	会 員	一 般	会 員
RA基礎+RA実践	72,000円	62,000円	64,800円	55,800円
RA実践+RAEX	116,000円	102,000円	104,400円	91,800円
PS基礎+PSスキル	58,000円	48,000円	52,200円	43,200円

【参加者 記入欄】

記入不要	ふりがな 参加者名			
	事業所名			
	部課・役職名			
	郵便番号		電話番号	
	所在地			
	※参加するセミナーの「回数」と「開講日」を記入してください。	コース	回数	開講日
		リスクアセスメント基礎コース(RA基礎)	第 回	月 日
		リスクアセスメント実践コース(RA実践)	第 回	月 日
	リスクアセスメントエキスパートコース(RAEX)	第 回	月 日	
	リスクアセスメントによるリコールマネジメントセミナー	第 回	月 日	
	製品安全技術セミナー「基礎コース」(PS基礎)	第 回	月 日	
	製品安全技術セミナー「スキルアップコース」(PSスキル)	第 回	月 日	
	PS/PLマネジメントコース	第 回	月 日	

【連絡担当者】

会社名			
事業所名			
所属部課名			
役職名			
氏名			
所在地	〒		
電話番号		FAX	
E-mail			

《 当コース内容に関するお問合せ先 》 一般財団法人日本科学技術連盟 製品安全/リスクアセスメントセミナー担当
TEL：03-5378-9850/FAX：03-5378-9842/E-mail：re-group@juse.or.jp

《 セミナーお申込みに関するキャンセルの取扱いとお願い 》

- ① セミナーをお申込みいただいた後、止むを得ない事由により参加者の都合が悪くなった場合には、出来るだけ代理の方のご参加をお願い申し上げます（セミナー開催途中の参加者の変更は不可）。
- ② セミナーの参加をキャンセルされる場合には、セミナー受付に電話、EメールまたはFAXにて事前にご連絡をお願いします。
なお、その際、ご連絡の日にちにより、次のキャンセル料をご負担いただきます。

【キャンセル料】 ・ セミナー開催日の7営業日前～2営業日前のキャンセル—受講料の20%
・ セミナー開催日の1営業日前 17:00 までのキャンセル—受講料の50%
・ セミナー開催日の1営業日前 17:00 以降のキャンセルまたは事前のご連絡がなかった場合—受講料の100%

【セミナーの申し込み、キャンセルなどに関するお問い合わせ先】

<セミナー受付> TEL：03-5990-5849 FAX：03-3344-3022 / E-mail：regist@juse.or.jp